

注、百寮之講哉、

〔下學集下應藝〕象碁シヤウキ

〔書言字考節用集七器財〕象戲シヤウキ太平御覽、周武帝所造者、將碁キ

〔和爾雅五嬖戲具〕象戲シヤウキ有二大一中一小一數一、其製

〔倭訓栞後編九〕玄やうぎ 象棋也、將碁はあし、類書纂要に、謂以象牙飾棋也と見えたり、

〔古今類書纂要七諸戲〕象棋謂以象牙飾棋也

〔異制庭訓往來〕將碁則合戰之行也、小則象三十六禽之列位、多則法三百六句之甲子、不知馬之進退、

難辨王之運否、

〔年山紀聞五〕將碁

圍碁雙六は、ふるくより物にも見えたり、將碁はいつ頃よりといふ事をえらす、同記月記四年明

○建仁四年恐三年誤十二月十日、宇治御幸記、其傍置圍碁雙六將碁等盤とあり、後日に家兄爲實の云く、台

記に大將碁といふ物みえたり、○下

〔遊學往來上〕抑住山之間、余吟然之遊戯爲宗、然者改年初月遊宴、○中將碁、○中大將碁、中將碁、

〔雍州府志七土產〕將碁盤略○中凡將碁、有小將碁、中將碁、大將碁、大大將碁、摩訶大將碁之品、堪其事者

有家領、猶稱碁所、

〔翌檜末〕將碁

小將碁 和將碁 中將碁 天竺將碁 大將碁 大々將碁 摩謁太將碁

〔大象棋絹篩〕象棋六種之圖式

象棋六種とは 小將棋 中象棋 大象棋 大々象棋 摩訶大々象棋 泰象棋

この六種なり、摩訶は梵語なり、此には大と譯す、泰はもと大音泰に作る、無上の義にして、大小の

種類  
小將碁